

会 報

東部ニューギニア戦友会

平成14年10月 1日号

東部ニューギニア戦友会 事務局

編集 新人

ごとう ゆうさく
後藤友作

〒157-0073 世田谷区 6-32-5

tel, fax, 03-3416-6504

東部ニューギニア戦友会会長

ご 挨拶

全国英霊にさぐる会 会長 堀江正夫

一日ごとに秋も深くなって参りましたが、皆様にはその後お変わりありませんか。

戦後五十七年を経て、最近、特に鬼籍に入られる戦友と、解散される部隊戦友会の数が増えていることは、誠に寂しい限りです。

そのような中で、引き続いて部隊の慰霊祭を行い、また、ご遺族を含めて多くの戦友の皆様が、現地に慰霊巡拝をして頂いていることは、大変有難いことで厚くお礼申し上げる次第です。

今春より成田ニューギニア間の定期直行便の就航を機に、今年中の巡拝団だけでも、九グループ四百余名の方々にお出で頂くとのこと。

私も戦友ご遺族共々20名で、八月中旬から慰霊巡拝に参りました。

その節、既に何回も収骨作業を行った跡地、ボイキン川の慰霊に朔行したお二人のご遺族が、相当多量のご遺骨のある現場を目撃されたので、帰国後早々に資料を提示して、早急な収骨作業の実施を、強く当局に要請致しました。恐らく来年度には実行されるものと思いますので、その際のご協力をお願い致します。

当会報に掲示しました、厚生労働省社会援護局よりの依頼ある、現地慰霊碑調査に皆様の積極的な、ご協力をお願いしますと共に、来春の当戦友会主催になる、恒例の合同慰霊祭には一人でも多くの皆様に、ご参列頂きますようお願い申し上げます。

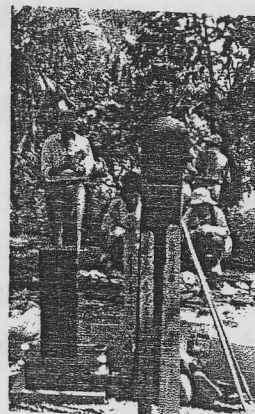
同時に皆様のご健勝をお祈り申し上げましてご挨拶と致します。

以上



ワリス、タラワイ 2島慰霊はヘリで行く

● 亀田、戦友 ● 松田、遺族 ● 松田、遺族
1 2 3 4 5



ボイキン-慰霊碑



堀江戦友会長
ブーツ、碑前

戦没戦友たちの慰霊行事に対し、現地の遺骨収集事業を始として、部隊会の慰霊祭
合同慰霊祭や現地慰霊巡拝団（今年度は定期直行便の便利さもあって、堀江戦友会長
グループを筆頭に 8グループ 400余名という）などに、関係ご遺族達の参加者も年ご
とに多く、無事盛大に催行されておりますことは誠に同慶の至りに存じます。

旧戦場、東部ニューギニアの地で（ババ、ニューギニア 杜煉軀）終焉された戦没者の為に厚生省
（現厚生労働省）に於ては該地域に総合慰霊墓苑の設置を企画し、昭和56年度に建立
した。建設については、計画段階より戦友会の意見具申を尊重して頂き（資金の一
部も奉賛協力）ババ、ニューギニア、ウエワクの地に、総合慰霊施設として戦没者慰霊墓苑
を建立して、故人の偉勲を偲び、追悼慰霊申し上げていることは ご高承のとうりで
あります。（日本国正規の海外慰霊施設資産として登録され当局の管理下にある）

戦時、我々が彼地に進攻し、最初に接した ニューギニア 人は、オーストラリアに統治されてい
ることを知る者は居なかったし、知る必要もなかったようであった。

N, ミルホ、マクライの（ロシア民族学者、130年前マダガスカル附近の調査探検記録）ニューギニア紀行）時代も、
戦中の60年前も、さして変化がなかったようで、部族単位で生活圏を有し部族独自の
言語（600語、700語と云々）を話し、族長（酋長）に統率され、焼畑農と自生植物などに
基本食糧を求める原始生活を営んでおり、統治国家に帰属している国民である、など
という意識は全く無い、素朴な裸族の原始人で自由の民であった。

米豪軍との戦いで交戦国英豪の、統治国土であった此の地に進駐した日本軍将兵は、
部族、種族や人種の差別なく親しく接遇したので、好意以上の真心を持って懇親して
おり、ワトク（同じ欄）であり ブラク（跡）と呼び合っていた旧ニューギニア人たち。

この年代の部族の人達や村びと達と話し合いし、了解し合って、慰霊碑等を建立した。

慰霊巡拝団は、此の地を慰霊の一箇所と定め、持参の供物をそなえ故人を追悼し、
永遠の冥福を祈念して拝礼したあとは、慰霊碑、塔像の管理者（野）に任ずる現地の
人には、手厚く礼を尽し後事を託して旅程を終えることが、生存戦友や遺族慰霊団の
常の習しであり、そのように経日して現在に至っている。

★－急速に普及した∞∞教の信者になった現地人の宗教観に祖先崇拜の念はない。

昵懇している現地の識人K氏が忠告を含めて云う村人達の本音は、雑草地に慰霊碑
を建てること、敬虔な態度で礼拝していることには、あまり関心ないが、時どき金持
ち日本人が大勢きて拝礼したあとは、理由は判らないが供物や珍しい品物のプレゼント
があり、乞えば マネー も貰えるので大歓迎するのだと云う。

★－欲しいものは正しく稼いだ金で買うという習慣づけと、物乞い行為を止めるよう
指導中です、プレゼント品のバラ撒き行為はやめて下さい。とのことである。

戦後半世紀余、民族意識に目覚めて行動し国の独立を獲得して、パプア、ニューギニア国民となり原始石器時代から二十一世紀文明圏へ。— 公衆の前での裸体を禁止し、就学率60余%と云うも数校の総合大学まであるし、本来の統一語？であった山稜南のモツ語と北側のビツ語を併用しながら、英語を公用語として、日進月歩の発展を支えながら先進国の仲間入りを目標に頑張っている真摯な姿こそ、現今のニューギニアの大勢であろうと推測されます。

駐留日本軍の(船工9機) マスコット的存在であったソマレ少年が長じて独立ニューギニア初代首相マイケル、ソマレ氏となり、公賓として来日した。今また再々度の首相に就任したという。

公式訪日時以降、格別昵懇をお願いしている仲間として声援しきりである。

併し人心の変りようも著しく オーストラリア統治時代、独立達成後の時代を経て三代目主流になりつつある現在社会の中で、俗に言う金の亡者になり下り、ラスカル(路上強盗)のような手段を選ばぬ守銭奴になっている一部の無法者もいるようである。

省みれば我等の身近にも、自虐史観を持ち、旧軍の贖罪や、左翼志向の反戦平和を盲信し、靖国嫌いなどを標榜しながら、誰もが反対し得ない戦没者の慰霊と、収骨協力団体であるかのように振舞い、ニューギニア関係の、同じ遺族達の心情に、泣訴し続けて使途不明金を集め、彼の地に行っては、歪んだ若者達の物欲思想を煽り立てている、反体制活動家もいる。

このような世相の中で生還戦友や、ご遺族各位が外国の土地に建立し残置している慰霊碑、塔、像と云うことになりましたが、その現状と管理状況はどうであろうか？。

★隣の部落には慰霊碑が建立されて、毎年多くの日本人が来て土産物を プレゼントしてお金を(儀礼)払って行く。俺達の部落附近でも日本兵が多く死んだと聞いているが慰霊碑はない。俺達の部落にも慰霊碑を建てて、日本人が来て沢山の土産物をプレゼントし、お金を払ってくれないのは不公平だ。と、日本人には抗議し現地の部落同志が反目し合っている所もある。(マリ方面地区の立ち入りは要注意)

★或る処では日本人慰霊団が来る、という情報をキャッチすると、大急ぎで慰霊碑の周囲を清掃(雑草を刈り取る)し、管理の良さを強調しながら管理費？と、いう名目で 金品を強要している例がある。

★某地区では、この慰霊碑は俺達の土地に、昔 無断で建てたものである。今は邪魔になったから退けろ、と云われるので他所に移転を予定して、話合いにはいると、今までの土地使用料と管理料をはらえ、として膨大な金額を要求してくる。

要求するお金の支払い無いうちは、慰霊碑は引き渡さない、と云う。

★参拝料を劇場の木戸銭のように、前金で払わないと慰霊碑拝礼地区に入れてくれないところもあるとか。 建立者不明、管理する人もなく草芒の中に朽ち果てる木碑、放置されている碑もある。

旧戦場、多くの戦友達が戦没した地、生還戦友、遺族共々忘れ得ない大地であるが外国の土地である。国の庶民は独立後 権利意識だけが特に強くなっているなかで、一面識の現地人との口約束だけで慰霊碑等を建立して、故人の永遠の冥福を祈り続け碑の永久管理を希うことの保証があるだろうか？。 (文責 後藤)

★★★ 厚生労働省 社会援護局よりの調査依頼事項 ★★★ 15-9-14日

民間団体等が海外に建立した日本人戦没者の慰霊碑等の状況調査について調査依頼がありましたので、関係各位の調査協力方をお願いします。

調査の対象となる慰霊碑等は、民間団体等が海外に建立した日本人戦没者の慰霊碑等です。

慰霊碑等の規模の大小は問いませんが、相手国政府等により建立されたもの及び特定の個人を慰霊するために建立されたものは対象外。

- 調査内容
- ★1 慰霊碑建立の有無。
 - ★2 建立している場合は、
 - ★3 名称、
 - ★4 所在地、
 - ★5 竣工年月日、
 - ★6 納骨室併設の有無、
 - ★7 納骨保管の有無、
 - ★8 管理者、
 - ★9 管理費の支払い方法、
 - ★10 写真等関連資料の提供、

★★★ 第14回合同慰霊祭＝15年 4月 5日 11 時より靖国神社に於て斎行。

10時まで参着願います。

- 推薦図書
- | | | |
|--------------|-------|----------------------|
| ★戦争『虚構と真実』 | 光人社 刊 | 著者 尾川正二 ニューギニア 生還戦友 |
| ★『死の島』ニューギニア | 光人社 刊 | 第一回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作家 |
| ★検証、田本陣の『悪行』 | 自由社 刊 | 著者 田辺敏雄 現代史家 |

東部ニューギニア戦友会長 殿

厚生労働省社会・援護局長援護企画課長



民間団体等が海外に建立した日本人戦没者の慰霊碑等の
状況調査について（依頼）

日頃から貴会には戦没者等の慰霊事業について種々御配慮を頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、民間団体等が海外に建立した日本人戦没者の慰霊碑等（以下「慰霊碑等」という。）につきましては、外務省並びに民間団体等の御協力を得て、これまで 397 基が確認されましたが、そのうち、300 基余りの管理状況が不明となっています。

当省では、これらの慰霊碑等の維持管理は、建立者が行うことが基本であると認識しておりますが、その管理が十分ではなく、放置されたままとなっていることは適切ではないことから、引き続き調査を行い、慰霊碑等の管理状況の把握に努めることが必要であると考えております。

つきましては、慰霊碑等の更なる管理状況把握のため、下記による調査等について御協力いただきたく、よろしくお取り計らい願います。

記

1 依頼内容

貴会又は貴会傘下の遺族会、戦友会等が海外に建立した慰霊碑等についての調査

ア 慰霊碑建立の有無

イ 建立している場合は、名称、所在地、竣工年月日、納骨室併設の有無、遺骨保管の有無、管理者、管理費の支払い方法、写真等関連資料の提供

なお、貴会傘下の遺族会、戦友会等から広く情報収集を行う手段として、貴会発刊の機関誌により広報を行う場合は、別紙の資料を御活用ください。

2 調査対象慰霊碑等

調査の対象となる慰霊碑等は、民間団体等が海外に建立した日本人戦没者の慰霊碑等です。

なお、慰霊碑等の規模の大小は問いませんが、相手国政府等により建立されたもの及び特定の個人を慰霊するために建立されたものは対象としません。

（添付資料）これまでに把握された慰霊碑名簿

民間団体等が海外に建立した日本人戦没者の慰霊碑等の
調査に御協力を ～厚生労働省からのお願い～

現在、戦後海外各地において、戦友会及び遺族会などの民間団体の方々が建立した日本人戦没者の慰霊碑等の中には、戦後半世紀以上が経過したことにより、建立者が不明となったなどの理由で、その維持管理を十分に行うことが困難となっているものがあります。

これらの慰霊碑等については、民間の方々が戦没者の慰霊追悼を行うために自発的に建立されたものではありませんが、国としてもそのまま放置されることは適切ではないと考え、その実態把握をするための調査を行っているところです。

しかしながら、関係者の高齢化などにより、こうした慰霊碑等を誰がどの地域に建立したかなどの情報を得ることが困難な状況にあります。

つきましては、海外各地に民間の方々が建立した慰霊碑等に関する情報をお持ちの方は東部ニューギニア戦友会事務局又は厚生労働省まで御連絡くださるようお願いいたします。

厚生労働省社会・援護局援護企画課外事室 調査第一係 電話 03-5253-1111 内 3482
--

民間団体等により海外に建立された慰霊碑の状況調査票

(パプア・ニューギニア)

No.	碑 の 名 称	所 在 地	竣工年月日	建 立 者	管 理 者	備 考 (管理状況等)
1	英霊碑	ウェワク	昭 4 3 年	神戸市 西垣 匡		保存状態は良好
2	大知合同英霊碑	ブーツ	昭 4 6 年 1 月	奈良県 亀井 文子		
3	慰霊碑	カイリル島	昭 4 2 年	海軍 海竜会		
4	慰霊観音像	コイキン	昭 4 5 年	長野県 ニューギニア会		
5	慰霊碑	ボイキン	昭 5 2 年	東部ニューギニア 戦友会		
6	慰霊碑	ソナム	昭 5 0 年	海軍 航空部隊会		
7	慰霊碑	マダン		日本パプアニューギ ニア友好協会		
8	慰霊碑	ウェワク ウイリーヒル				
9	戦没者英霊碑	ブーゲンヴィル島 ブーイン	昭 5 9 年 8 月	全国ソロモン会		
10	戦没者英霊碑	ブーゲンヴィル島 タロキナ	昭 5 9 年 8 月	全国ソロモン会		

(パプア・ニューギニア)

No.	碑 の 名 称	所 在 地	竣工年月日	建 立 者	管 理 者	備 考 (管理状況等)
11	戦没者英霊碑	ブーゲンヴィル島 ヌマヌマ	昭59年8月	全国ソロモン会		
12	戦没者英霊碑	ブカ・ソハノ島	昭59年8月	全国ソロモン会		良好
13	慰霊	ブーゲンヴィル島 キエタ	昭58年5月	鹿児島県 遺族会		良好
14	高知県戦没者の碑	ギルワ	不 明	高知県ニューギニア 会	不 明	
15	高知県戦没者の碑	ココダ	不 明	高知県ニューギニア 会	不 明	

パプアニューギニアの慰霊巡拝、駆け歩る記

元第十八軍通信隊の
電信第三聯隊

須 貝 謹 二

東部ニューギニア戦友会主催による、標題慰霊巡拝に参加。29年振りで故郷に帰ったような気持ちで、駆け廻って来た。

従軍3ヶ年、現地人の援助によってか、奇蹟的に生還し得た土地である。

東部ニューギニア戦友会の堀江会長が、ツアー団長であった事も大きく期待したが、案の定、生き字引であり、かつての職歴、経験、お人柄を漏らすところ無く傾注して下され、且亦、御令嬢ご家族一同の参加もあり、人心の機微に通じた世話や、家族旅行的ムードを醸成して戴き、予想以上の成果であった喜びを添えて、ここに先ず感謝の御礼を申し上げる次第です。

私は昭和48年に、遺骨収集団員として、戦後28年目にボイキン〜ダグア周辺と、ムシュ島とカイリル島に約1ヶ月。戦後の変化を見聞し得ており、今回は更に29年振りで。戦中から一挙にの見聞ではないが。何れにしても短日時なこと、変化の著しさを、狭い視野からの見聞ですので、誤りも、勘違い、脱落も多いが、お許しを願うとして、日順を追って思いの儘記載して見ます。訂正ご指摘を戴ければ幸甚の至りです。

- 1、日 時 平成14年8月17日〜8月24日。
- 2、主な拠点地 ポートモレスビー〜ウエワク〜マダン〜ゴロカ〜ポートモレスビー
- 3、参加者 20名（取扱旅行社の国際航空旅行サービス(株)の大坪添乗員を含む）
尚、この地従軍経験者は5名（軍司令部、電三、51DTLと、41DTLから2名）
他は御遺族とその関係者。

8/17 成田出発 22時40分頃。ニューギニア航空の300名乗りのジェットもほぼ満席。本年4月から直行便が出来て、珍しさと季節的な事の観光客だ、と仄聞した。

8/18 ポートモレスビー到着

午前4時少し前（日本時間では午前5時少し前） 従って、約6時間で南緯7度辺り迄一挙に飛んだ事となる。（以下現地時間で記載する）

日曜日であったけれども、堀江団長のお陰で、国立博物館と国会議事堂構内を見学。博物館は民芸品の彫り物、編み物が多く、国の歴史を思わせるような物は少なかった。議事堂は屋内には入れなかったが、入り口辺りを、この民族独特な三角形に高く持ち上げたような構造ではあるが、近代的な立派な建物であった。

初代首相マイケル・ソマーレ氏の胸像が入り口にあった。この方先日また首相に選ばれた、とか。団長のお話しては、三回目だそうです。

広い立派な構内の一角に、マンゴーの樹には直径3〜4cmの、またパンの樹にもその程度の果実がなっておった。熟すのはクリスマスの頃とか。

乾期の季節で、野山の草は、黄ばんで見えた。

首都と申しても、今も海上生活者の家並み。路傍に陳列しての野菜、果物のマーケット風景は、48年時と変わり無い。

裸体歩行者は無くなったが、裸足の者は幾らかおった（田舎に行くときまだまだ多い。ビーチサンダルが多く使われておった）

スプレー落書きは、いずこも同じ。 13時頃、60名乗りジェット機で、次へ。

ウエワク到着 同日14時20分頃。

ホテル近くの、日本国営の「平和公園内の慰霊碑」で合同慰霊祭挙行。堀江団長の祭文奉読、内地からの思い思いな供物を供えて、堅持して来た慰霊の誠を捧げた。

写真で見ただけで、初めての此所。内地の神社、仏閣の構造境内を連想しては、お粗末と云わざるを得ない。

文化の異なる現地民情に合わせての設計、遠い異国への資金のこと、高温多湿で雑草整理の管理が追いつかない事からではあろうが、特に入り口扉の管理は、幾度となく問題提起を仄聞して来たが、壊れて開放の儘。内地の果樹園の扉の方が、まだ増しのよう。

慰霊碑と控え所(?)の屋根は厚さ2cmの15×35cm程度の板で葺いてあるが、2～3ヶ所は板がズレて青空が覗けた。当然雨漏りがあろう。

天井も、周りも飾りの存在は何も無く、屋根裏に管状の蛍光灯が設置してはあったが、果たして点灯するのか？。

公園の中央部に相当面積の池があり、その真ん中が参道となっておる。蓮を植えてあるも、乾季の為か、渇水で泥ばかりが強く見えて、折角の蓮の花も雑草的にしか見えなかった。

園内も時折は草刈りをするであろうが、丈高い草は無いだけで、文化の異なる遠い異国であろう難しさを痛感させられた。

寧ろ、地形を利用して、見晴らしの良い所に慰霊の碑だけを **デン** と建てた方がスッキリするのではなかろうか？ 等と素人の愚考を逞しくした。（洋展台の慰霊碑のように）

この公園構築前の慰霊碑が、右側奥に建てられてあった。当時の首相吉田 茂氏の揮毫と聞いたが、膝高の草叢の中であった。

洋展台の慰霊碑参拝。ウエワク半島を一望の芝生高台にあって、前記国営よりも立派で清楚な感じもした。周囲の谷間に日本軍の高射砲が3台もあった。

団長は5門と申しましたが、実際見るとのは3内だけで

次は**阿部岬**へ。当時、41師団の駐屯地。師団長阿部中将の偉名をとって命名したとか。こんな環境絶佳な所が、血みどろな戦場であったとは、想像しがたかった。

ここには慰霊の造りは何もなかった。

(8/19) **ウエワクを拠点**に、4組のオプションコースへ（昼飯弁当携行）

1、福井県大野市と京都の宇治市からの松田さん親子は、ヘリコプターを雇い**トラワイ島**へ。この島で兄であり、伯父である方が戦死。（言葉不馴れな者のみでは危険と、51DTLの東京からの亀田さんが同行してくれた由）

2、丸亀市からの真鍋さん親子は、セピックからチンブンケに。
チンブンケは問題の地なのですが、係わりも無く無事に帰られた。

3、東京北区からの酒光さんと、愛知県豊川市からの加藤さんの女性二人は、現地案内人と
ボイキン河を遡り南方向の山中へ。この辺は112兵站病院のあった
所で、48年時には多くのご遺骨を収集した所でしたが、今回も計らずも路傍で遺骨の
一片を発見持参した。更に奥の小高い所には歴然としたお墓が在り、300～400柱の
ご遺骨があると見られ、所在水筒には部隊名と伊藤とかの姓名もあった由。

団長が、現地大使館員に状況を通告し、ご遺骨を預け。帰国後厚生労働省に赴き、通告
し、処理一切を委託の労を執られた由。

4、他、団長以下は、終戦の調印式を挙行のオム岬へ。

当時、軍参謀として調印式に列席された堀江団長の、生き字引説明は、当時を良く想
起させてくれた。

現存する立派な碑は、日・濠で平和祈念の記念碑を建立と誘われて建てたが、碑文内容
は、彼等の戦勝記念的文句で「一杯喰わされた……」とか。

広く、長く奇麗に管理されており、日本軍の各種砲も多く飾られてあった。

懐古すれば、昭和19年9月頃でしたか、孤立無援的なこの島に、不帰を覚悟の上で、
爆撃機に医薬品や通信資材の緊急品を満載して、この岬に胴体着陸で来てくれた所でした。

5、続けて西方の各所へ。

昭和19年半ば頃から、ウエワクから西方の道路（現在の道路より海岸沿えでした。自
動車は果たして通れたか？）の両側は、屍累々の「屍街道」と云われた所であった。

現在の道路は、戦後の新道で。日本風に申すなら「国道1号線」であろうが、幅は5m
程度か、側溝があるで無し、舗装はしてあるが、小高い側面から土砂の路面への崩れは余
儀なく、疾走車の後ろは黄塵万丈。満州を思い出される。

補修管理も届かないのか、到る所に舗装の剥がれや、水溜まりで乗り心地等は論外。
（中型トラックに長椅子を設置し、手摺りと覆いを掛けた改造のバスではある）

特に、ボイキン河との交叉点なんかはスコールの流水と通行車両との相乗的コネクリ廻
しで、道路が二条ともなっていて、その路傍に造った筈の「焼骨塚」の位置すら判らなくなっ
ていた。

終戦の折、山南地区から、このボイキン河の河底を伝って、この道路を横切り、浜辺の
「降伏地点」とやらで兵器を渡してムシュ島に渡った想いで濃い地である。

昭和44年と48年時、この地区収骨担当者が、収骨したのを一旦焼骨の上内地にお
迎えし、その焼骨の灰を齋き祀って塚とした。

その塚の木塔腐蝕倒壊を期に、昭和62年秋、収骨担当の7名で銅板による塔を造り
剥離盗難を慮り、更に西方約100mの（ウエワクホテルの川畑支配人の現地妻実家の庭

に) 移設させて貰ったのが、これから参拝する慰霊塔である。

ボイキンの慰霊之塔

表に「日本軍将兵慰霊之塔」と、裏に碑文を、須貝の拙筆によるが、東部ニューギニア戦友会事務局長の後藤友作氏の甚大なる御労苦に拠った事は、申す迄もない。

かつての名歌手上原 敏氏の慰霊塔の如く、剥離盗難された同じこの地区で、広く白砂を敷き、斯くも立派に管理しておられる事は頭の下がる思いでした。

後日「賽銭箱」を渡し、浄財は「永久管理費」に、と申しつけたのですが、今回それを質したが、「そんな物知らない」と。第二世の代の女性らしかったが、感謝感激でした。

また、後年、独工37のご遺族岡谷某氏が、隣接して慰霊墓碑を建ててあり、遠くない年月に参詣された形跡もあった。

猛錦山軍司令部と電信第三聯隊駐屯跡地へは、草丈高く迎も入れなく、道路端から遙拝黙礼。

猛錦山司令部は昭和19年5月24日に爆撃を受け、防空壕内の41D伊藤参謀長や、向井、上田、打田の軍参謀等要人6名も即死。

そのご遺骨を何年掛かりかで幾回と無く探索したが、48年時に奇蹟的に発掘し、故国にお迎えした思い出深い所。

電三のここカラワップ駐屯は19年3月から10月下旬迄で、その間アイタペ作戦で前線に出たりでしたが、就中8月下旬からは連日のように戦死者が出て、生きた心地も無かったが、「埋葬の穴掘りに誰を出すか」の思案が先で、悲しみや落胆よりもそれが先で。

皆ヨカヨカの弱兵ばかりで、数日後には穴に入るような破目の者も多かった。

お供えの「カンメンボウ」お線香(蚊取り線香を代用)も、次に使うであろう、と保管し。数日後には「徴が出そう……」と始めて、穴掘り使役兵に……等など、暗いイヤな思い出の地である。

アワイン河と橋

戦中当時、この河を渡るには、鰐を恐れながら腰迄水に浸かって渡る難所でした。

昭和40年頃とか、新潟県出身の原氏(迫撃21大隊員の遺児で、この国の嘱託技師)の設計で吊橋を架けたのですが、昨年上部鉄骨が腐蝕で取り除き、平面的橋となってあった。

中央に板を敷いて歩行者も通行可能であるが、橋脚は何時まで保つのか気にならないと申せば、嘘になる思いで通った。

程なくダグア飛行場跡地。

ここには、~~名僧山田無文~~師が建てた立派な慰霊碑があるのですが、現道路からは可成り隔てた海岸寄りで車も入れなく黙礼通過でした。

ブーツ飛行場跡地は広く長く草原になっており、滑走路の一角が現道路となっておる。

日本軍飛行機の残骸が散見されたが、48年時からすれば数も少なく、腐蝕の度も甚だしく感じられた。今暫くしたら、こうした物も見られなくなるであろうが、複雑な思いにかられた。時の流れでしょうか。

福岡県太宰府市からの木本さんの伯父がここで戦死とか。飛行場の一角で慰霊祭を挙行。

ソナム部落の慰霊碑を最西の巡拝地と目標に西進した。

部落入り口のソナム河が、橋が流されたか基礎コンクリだけ残っておる。偶々雲まで出て来て、無理と判断し、河川敷から車を反転帰途に就くとした。

ところが、砂原に車輪がメリ込んで大苦勞、幸い現地子供迄手伝ってくれ、事無きを得たが。住民の純朴さは一部を除き、まだまだのよう。有り難う。

この道筋には、まだまだ慰霊碑があった筈なんだが、堀江団長の説明を聞き漏らして記録しなかったか？もあった。

参拝したのに、**矢野文男軍医中尉のお墓**

確かボーキン部落の路傍近くに、ご遺族が建立した由。112兵站病院所属で、現地人をもこよなく愛し、その中の某家族が熱心にお墓の管理に努めておるらしい。早速に軍医生前の写真を墓前に供えてくれ、我々の慰霊祭に華を添えてくれた。

直接懇意であつたらしいラップン(轆)も出てきて、何やら申し立てて居たが、語学力の低い私には通じなく、情けなかった。持ち合わせの「ハッカ飴」を数個上げて謝意を表したが、せめてもの御礼。

帰途時間があつたので、ウェワク半島のスーパーマーケットを見学。何でも在る、と申しても過言ではなさそう、インスタントコーヒーから缶詰め類、食品、洗剤等など。米は大小様々な大きさの袋詰めで、鶏卵は茶褐色もので12箇1ケースが邦貨にして300円程度、これは少し高いようであつたが、全般的には低廉と見た。

(この国の貨幣は「キナ」と称する単位で、1キナは約44円の為替相場で、1ヶ月の平均収入は約20000円相当とか)

8/20 この日は全部オプションコースで、昼飯弁当携行。

- 1、福井市からの富田さんは、海軍でカイリル島で戦死の尊父の最後の地を求め、単独、船で。帰途隣接のムシュ島を巡拝して来た由。言葉の事を苦慮しての出発でしたが、尊父英霊の加護か、以心伝心何とか望む点は得て来られたよう。

(この方最後まで同室起居で、ご厄介になりました。紙上を借りて厚く御礼を申します)

- 2、富田さんと須貝の他は、山南地区を相当広範囲に巡拝。堀江団長の生き字引案内で、皆満足態で御帰還の趣き。

残念ながら、それら状況をお聞きする好機を逸して今日となったが、後日、是非に、と期待しておる次第です。

3、**アルン部落の電三鎮魂乃碑**の参拝

旅行社で手配してくれた現地案内役のサカライ・アントン氏と助手のジョン氏と3名で、小型半貨半客の車で8時30分にホテル出発。昨日の国道を西進し、約30分でアワイン河に到着。

案内役のアントン氏とは、斯様に旅行商社の仕事をやっておるも、セビック洲観光課の職員でもある由。ただ、旅行会社が「通訳」と言うには、若干オーハー。英語オンリーでビジネスは多少程度。（ニューギニアで完全通訳を望む方が無理か？）

でも昨日、ボイキン河を遡っての案内も彼で、シッカリ者ではある。後刻知った事です、ウエワクホテルの川畑支配人とは川畑氏の現地妻の関わりから親戚の由。

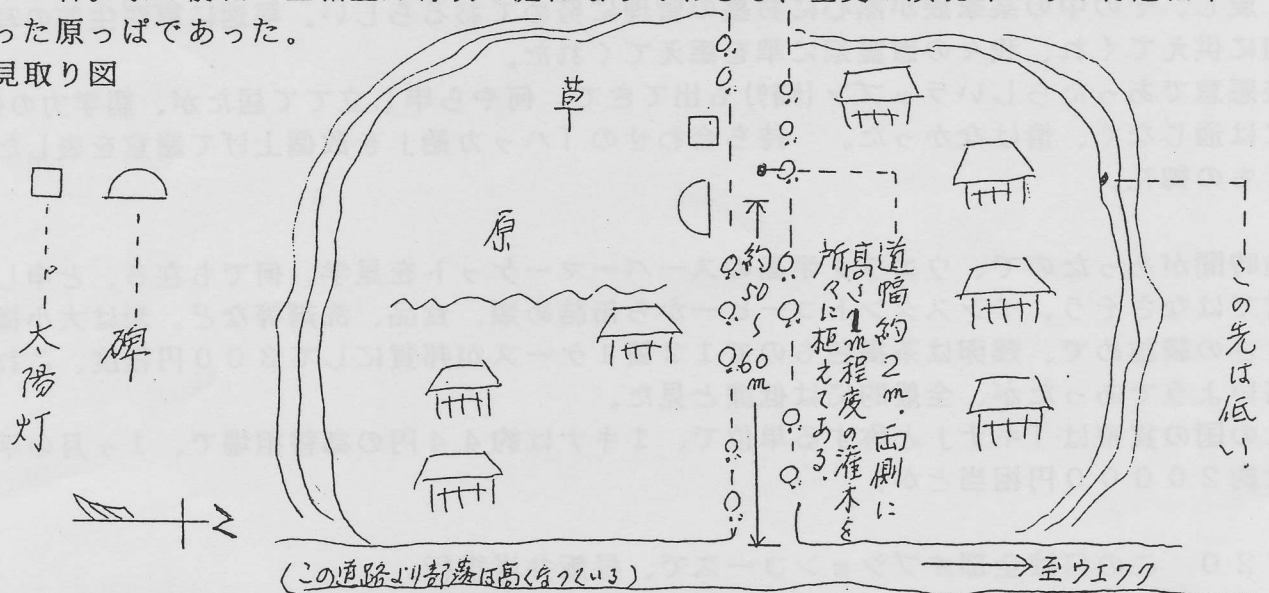
アワイン河手前50m辺りから左折、幅3m程の全くの「田舎道」舗装無し、中央に雑草が生えて勿論凹凸極まり無し。約50分程で待望のアルン部落に到着。

（この道路は今少し先迄はあるが、ベリンガやベンゼンには河を渉って歩くしか無い由。

早速、例によって部落民10数名集まって来た。ワラマンゲは？と尋ねたが「ダンプロハウス（古い家の家）だろう……」であったが、ワラマンゲの娘なら居る……と。（出発時の、後藤事務局長の忠告を守り、余り深入りせず、程々を厳守した）

戦中、電三本部は川端の低い土地のジャングル内に駐屯したが、現在のアルン部落は高台で、民家は6～7軒。家の前は「三和土タタリ状の庭になっておるも、左奥の鎮魂碑のある付近は草を刈り取った原っぱであった。

概略の見取り図



お燈明、お線香、供物、卒塔婆を供えて一人だけの礼拝を挙行。長年の念願の一端が叶えてホッとしたよう。病軀を押して来た甲斐があった。アントン氏がデジカメで盛んに写真を撮ってくれた。

先年の巡拝者が「碑が傾いておるとか、陥没しておる」の事は、私の見た限りでは、その懸念は全く無い。（経験上からの判断）

基礎コンクリートは約10cm程の高さに施行、唯、ある程度の深さから、板枠を組んでの工事でなさそう、そしてその周りを化粧的に塗ってなく、約10cm幅の横断面凹凸が見えるだけ。周り全体平均してのあらわれで、碑の座りも傾きは無く、基礎周りを踏んでも特に軟弱箇所も無く大丈夫と判断した。

「兵者どもの夢の跡……」の側碑の上部切断放棄は、「上をどこへやったか？」と糾したら、一人の若者は「他の者がやったので知らない。上の方はどこかに投げただろう」と、取り付く島も無い返事。（車を突き当てて壊したのでは……）と聞かされた記憶もあるが、車の入る

ような道も無いし、そんな場所では無い。



碑の周囲の管理状態は、遺憾ながらゼロに等しい。ボイキンの焼骨塚の管理とは比較にもならない。「草を刈ってくれておった……」等と以前から幾度も聞かされたが、その付近の草原と共に（薙刀で）かなぐったに過ぎず丈高い草は無いけれども。少なくとも碑の周り1～2mは、草の根も取っての状態を連想したが。文化の異なる、この地に、それを望むのは、思いあがりか？。

刈り取った草の一部が、碑直前に放置、周りに2～3の空缶もあり、「草叢の一角に、唯、碑が在る」が諦観的現状と見る外は無い。例の太陽灯も腐蝕甚大、形だけ残って在った。

礼拝を終えて、村人と会話を始めた直後には、我先にと供物や線香、ローソクは勿論、卒塔婆も奪い合い。塔婆だけは、叱りつけて戻させた。（ここ迄は致し方無い、とするも）程なく2～3の若者が、碑の上に腰を掛けて雑談開始。これには呆れた、記念に写真一枚撮って、叱りつけたが、彼等にはその意味が判ったのか？。

帰途、私の知らない間にワラマンゲのハウスにアントン氏が車を廻してくれ、ワラマンゲと称する者と対面。彼は「カセ、オカサキ、カメダ、モリ、オウヤマ（青山か）」とプラタネームを並べておったから、偽物でもなかろう。

「加瀬氏は来たか？」と尋ねたら「来た」と。「マネーブランデ、サービス？」と聞いてみたら「ノー」也。（彼等は、時には自分に都合良い事を云うから、半信半疑でしたが、終わりとした）。

更に時間があつたので、ウェワクホテルに川畑支配人を訪ねた。氏はオーストラリアの病院に入院と聞かされて渡島したのでしたが、居られた。慢性的腎臓病とかで壮姿とは申せなかった。76歳鹿児島市の出身とか。48年遺骨収集時、10日間も投宿ご厄介になった仲。

「以前、貴ホテル庭にアルン鎮魂碑の移設を依頼したとか？」 「その話しは第三者からあつたが、正式には（加瀬氏から）無かったので、それっ切りとなった」と。

「加瀬氏は本年来ましたか？」 「女性を含め4～5名と来て投宿した」 「アルン部落民に

今迄の管理の謝礼と、今後を依頼する為、13万円を贈呈する。その贈呈の大任を加瀬氏に委任し、言葉の補足通訳を貴台にお願いし、立ち会い人に。と決議（一昨年秋）されておるが、その話しは？」 「そうした話しは全然無かった」と。

須貝の拙筆による碑でもあり、今後の管理保持に関し愛着一人は、当然な人情でもある。

「アルンボーイとアントン氏が盛んに何か語って居たが、聞いて見て戴けないか？」に対し、「アルンに来る日本人は、土産をくれるが、不公平に渡っておる。その為、部落にイザコザが絶えなく、部落の団結に悪影響が生じておる」と。

亦、そうした噂は、セビック洲知事にも聞こえ「そんな悪影響の根源をなす碑なんかダンプロにでも放棄してしまい」とご立腹と。 由々しき話しであった。

こうした慰霊碑は、ニューギニアのみならず、多く各地に在り、今後どのようにするか、日本政府も考え出したとの新聞記事を見たが、現地人の気持ちを買い、貢ぎ物を多く持参が、問題提起の根源を為しており、施政上からも困っておるらしい。

現地で強盗事故等に遭うのも、そうした事から「日本人金持ち」を彼等に思わせるからで、決して油断してはならない。と堀江団長からも形を替えて種々ご注意なされた。

8/21早朝(6時30分頃)ウエワク発、60人乗りジェット機で約40分でマダン到着。(41DTLの植田、横田の両氏と豊川市からの加藤女史は、最後迄ウエワクを予定なので17名だけ)

ヤボプの慰霊碑で先ず慰霊祭を挙行。

この管理状態にも、種々曲折があった由ですが、現在はジャント(株)で専属管理人を配置してくれて、北方の海が一望出来る丘の上でもあり、一層な清楚感があった。

それでも、堀江団長が昨年かに揮毫の筆蹟をペンキで転記した「忠魂」の文字も幾らか削られてあった。

帰途、ビルビル部落でシンシン(踊り)を見学。幼児を含めて22名の踊り手、多少の料金は得たであろうが。暑い中を、厚化粧に着飾って、音楽に合わせて、単純ではあるも独特な手捌きで、真剣に踊って見せてくれた。

地べたに、陶器や手提げ網籠を並べて。売ろうとする事も忘れてなかった。

その他の見聞事項(昭和48年時と比較して)

- 1、モレスビー着陸の折。空港周辺に灯火の多くなったのには驚いた。(それだけ発展か)
- 2、屋根からの雨水を貯めて使用する「タンク」が少なく感じた。(水道が普及したか)
- 3、道路事情が低悪しておる。舗装の剥がれは勿論多くなっており、交差する河川との施設が崩壊しておるが放置状態が多い。
- 4、椰子林等の管理、下草刈りを怠っておるのか、コブラも収集しな^{いの}か、至る所から芽を出してか、整然と並び奇麗な植林の風景は見当たらなかった。
- 5、若い者には、もうビジン語は通じない。煙草をサコイ。「こうもり」をキラボギスと云っても通じない。(亦、マダンの空には、日本の鳥大のコウモリが相当数真昼も乱舞しておった)
- 6、車は多くなった。半貨半客の小型車が多い。トヨタ、ニッサン、三菱等日本製が殆ど。7日間意識的に見たが、フォード他外車は3台のみ。「奥村商店」と書いたその儘での中古車も、走っていた。自転車は余り見かけなかった、7日間に4~5台見ただけ。
- 7、昔は「食べる分だけ」あれば、それで良いの日常であったのが、何でも目前に在り、現金が無ければ困窮するの生活になり、文明が彼等には果たして幸福か?のよう。
- 8、かつてと同じ肌色顔色の黒色の女性が、制服を着けてスチャワデスは申す迄も無く、ホテルカウンターで計算機だかコンピューターだかのキィを叩ており、隔世の感を強くした。まだまだ、ありましようが、小さく狭い眼、耳にはこれくらいです。補足、修正を願ければ幸甚の至りに存じます。皆様には大変お世話になり、厚く御礼を申し上げます。英霊の御冥福をお祈りしつつ擱筆とします。

以 上